

TGM

単板切断機も販売堅調

ソフトと連動し 自動・省人化も

TGM(東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260)は、イタリア・ポッテロ社製切断機を販売している。ポッテロ社はガラス切断機を中心に、合わせガラス製造ライン、面取り機、NC変形加工機などを製造。国内でも400台以上の設備の販売実績を持つ。イタリア・オプティマ社のソフトと連動すれば、事務所で作成した切断データをコントロー・シャトルシステムなどの自動倉庫装置に転送し、自動で採板、切断できる。労働力確保の問題や自動化、省人化の流れで導入が進む。ガラスの加工業者、特約店などで古い切断機の更新が進んでおり、ポッテロ社の切断機が広く採用されているという。合わせガラス需要の増加から合わせガラス切断機の販売も堅調で、国内での販売実績ナンバーワンを誇る。

欧米では150×100センチ(3810×2540センチ)が標準の素板サイズ	ズで、ポッテロ社は2014年から96×72センチ(2438×1829センチ)対応	応の単板ガラス切断機「353BKM-MINI」の製造を中止している	た。一方、日本では強い要望があり、「353BK-MINI」の製造
---------------------------------------	--	-----------------------------------	----------------------------------



Ⓔ96×72センチに対応する切断機「353BKM-MINI」
 Ⓕ切断機前後に採板機、板折りテーブルを連結できる「343タイプ」

を再開した。

「353BKM-MINI」の基本性能は従来の切断機と変わらず、最大切断サイズが108×80センチ(2750×2032ミリ)になった。対応ガラス板厚は2〜19ミリ、切断速度は150ミリ毎分、切断精度はプラスマイナス0・15ミリ。標準機能は①異形切断②スキャン機能③CAD機能④自動板圧調整機能⑤操作モニターの日本語表示。オプションで素板を載せやすくするためのテーブル起倒機能もある。

ポッテロ社はガラス切断機の老舗メーカーとして、ニーズに合わせた切断機のバリエーションが豊富。日本市場向けの「353BKM-MINI」の他、切断機単体でガラス載せ、切断、折り割りができる「353タイプ」、ベルト搬送機能を持った量産タイプの「343タイプ」などがある。

操作モニターは日本語表示。Low-E膜取り機能、ラベル貼り付け機能、CO₂レーザーマーキング機能をオプション装備。切断とラベル貼り、切断とレーザーマーキングを同時に切断工程で実現する。

ポッテロ社は1957年に創業。ガラス加工設備のワンストップサービスを目指し、切断機、合わせガラス製造ライン、

面取り機、NC変形加工機などを製造する。年間の設備販売台数約1000台のうち切断機が半分の約500台を占める。